

小児医療特集 未来の宝を守る。



INDEX

■ 附属病院

新任教授に聞く	谷山 佳弘	05
痛みセンター	中本 達夫	06
CCU ハートチーム	細野 光治	07
産科 産科	諏訪 恵信	08
妊産性温存外来		08

■ 総合医療センター

新任教授に聞く	島谷 昌明	09
新任教授に聞く	岸本 昌浩	10
脳卒中センター	岩瀬 正顕	11
産婦人科病棟の取り組み	大上 千賀	12

■ くずは病院

副院長に聞く	角田 智彦	16
内科医ご紹介	福原 貴太郎	17
	宮本 早知	
	野田 哲平	

■ 香里病院

骨粗鬆症センター	上田 祐輔	13
エキシマレーザーの導入	上尾 礼子	15

■ 天満橋総合クリニック

診療体制について		18
----------	--	----

■ 関西医科大学附属病院

TEL.072-804-0101 (代)
<http://www.kmu.ac.jp/hirakata/>
 〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1
 地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局)
 TEL.072-804-2742 FAX.072-804-2861

■ 関西医科大学総合医療センター

TEL.06-6992-1001 (代)
<http://www.kmu.ac.jp/takii/>
 〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15
 地域医療連携部 病診連携課
 TEL.06-6993-9444 FAX.06-6993-9488

■ 関西医科大学香里病院

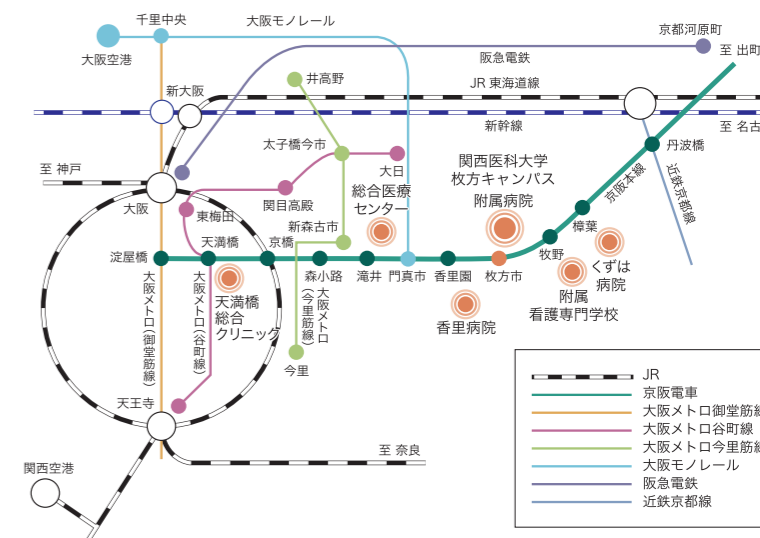
TEL.072-832-5321 (代)
<http://www.kmu.ac.jp/kori/>
 〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45
 地域医療連携部 病診連携係
 TEL.072-832-9977 FAX.072-832-9988

■ 関西医科大学くずは病院

TEL.072-809-0005 (代)
<http://www.kuzuhahp.com>
 〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町4-1
 地域医療連携課
 TEL.072-809-0013 FAX.072-809-0022

■ 関西医科大学天満橋総合クリニック

TEL.06-6943-2260 (代)
<http://www.kmu.ac.jp/temmabashi/>
 〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31 (OMMビル 3階)
 TEL.06-6943-2260 FAX.06-6943-9827



未来の宝を守る。

小児医療特集



関西医大の小児医療体制

小児科診療グループ

- 腎・泌尿器・膠原病
- 循環器
- アレルギー
- 心身症・発達症
- 内分泌・代謝
- 神経
- 血液・腫瘍
- 新生児
- 消化器



関西医科大学の小児医療は医師のみならず、看護師、保育士、理学療法士、臨床心理士なども緊密に連携し、子ども中心の医療を心掛けています。新生児から20歳まであらゆる疾患を受け入れており、予約制の特殊外来では腎臓・循環器・血液・腫瘍・新生児・アレルギー・免疫・内分泌・神経・発達・膠原病・心身症など、専門的知識を要する様々な疾患の患者さんに対応しています。

関西医科大学附属病院小児ホットライン

24時間体制で小児科・小児外科専門医が直接対応しております。緊急時には、下記ホットラインにご連絡下さい。

※下記番号は医師通話専用回線につき、患者様への公開はお控え下さい。

小児科 072-804-0138 小児外科 080-4837-7764

小児医療の役割

今日、わが国の小児医療を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。従来の主な対象疾患だった感染症は減少する一方、子育て支援や発達障害への対応、あるいは思春期児童への心のケアが求められています。しかし疾病構造が変わっても、小児医療の役割が軽くなることはありません。なぜなら「子は国の宝」と言うように、国が成長・成熟し続けるためには、次代を担う子どもが健やかに成長できるように、小児医療が大いに活躍する必要があるからです。また、子を思う親の気持ちはいつの時代も変わることはなく、医療関係者はその気持ちと子ども本人によりそった医療を心がけなければなりません。

関西医大の小児医療は「成長に合わせたケア」を合言葉に医師だけでなく、看護師・保育士・理学療法士・臨床心理士などが緊密に連携し、子ども中心の医療を心掛けています。小児科では左ページ図のように循環器グループ・アレルギーグループ・新生児グループなど9つの診療グループに分かれ、それぞれが専門的に診断・治療・研究を行っています。

2015年9月には附属病院小児医療センターが設立され、小児医療に特化した医師(小児科・小児外科・小児心臓外科・小児脳神経外科など常勤約30名)や看護師が、内科系・外科系疾患に関係なく有機的に連携して、的確かつ安全な先進医療の提供に努めています。また、小児疾患と小児外科疾患に関するホットラインを設置し、夜間の急変にも専門医が直接対応することで患者さんやご家族の一助になればと考えています。

総合医療センターでは、小児心身症の研修指定施設として小児神経症、発達障害、心身症の専門分野での治療を充実させ、香里病院では平日の夕方診察を行うことでお子さんが学校などから帰宅した後でも受診していただける体制を整え、患者さんの生活に根差した診療を行っています。

私たち関西医科大学は、附属医療機関内はもとより地域の先生方と丁寧な連携をはかることで、近隣の子どもたちに安心の医療を提供していきたいと考えています。

各病院関連部門長紹介

<p>香里病院</p> <p>小児科 助教(医長) 田邊 裕子 専門分野 小児科一般</p>	<p>総合医療センター</p> <p>小児科 病院教授 石崎 優子 専門分野 小児心身症 発達障害</p>	<p>附属病院</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>小児脳神経外科 診療教授 桒中 正博 専門分野 小児脳神経外科 悪性脳腫瘍の手術 新治療法の臨床試験 神経内視鏡手術</p> </div> <div> <p>小児心臓外科 診療教授 金本 真也 専門分野 心臓外科一般 小児心臓外科</p> </div> <div> <p>小児外科 診療教授 土井 崇 専門分野 小児外科全般 新生児外科 低侵襲内視鏡外科 創傷治療</p> </div> <div> <p>小児科 教授 金子 一成 専門分野 小児腎・泌尿器学 小児リウマチ性疾患</p> </div> </div>
--	---	---

新生児の手術や先天性疾患の外科治療に対応



附属病院では小児外科関連として『小児外科』『小児心臓外科』『小児脳神経外科』が開設され、それぞれの臓器に対応した専門医が手術を行っています。

小児外科では、脳と心臓を除く全身の臓器を対象に高度かつ専門的な外科手術を行っています。きめ細やかな手術操作が可能な8K内視鏡外科システムを用いた低侵襲内視鏡外科手術を積極的にを行い、非常に細い血管や神経を温存することで、将来のある子どもにおいて、「機能温存」に寄与していると考えています。

主に先天性心疾患を担当する小児心臓外科では、将来の成長を見据えた治療方法の選択に努め、低侵襲化を目指して、カテーテル治療を組み合わせた治療方法の導入も進めております。また、成人期到達した患者様のご相談にも応じております。

脳腫瘍、脳の先天異常については小児脳神経外科にて新規に導入したナビゲーションシステムと、ペテランのスキルに支えられた神経生理モニタリングを合体させることで、多くの患者さんに安心してもらえるような手術を行っています。

小児疾患の治療は小児期から成人期まで続く場合があり、継続した医療機関への受診を続けるためにも患者さんとご家族が病状と治療方針を理解できるように、わかりやすい丁寧な説明を心がけています。各外科部門が他部門と連携し、これから長い人生が待っているまだ幼い小さな患者さんへの外科医療サービスの向上と充実に努めています。

27床のNICUで新生児に対して手厚いケアを

※附属病院



附属病院総合周産期母子医療センターは、新生児部門として新生児集中治療室（NICU）12床、新生児回復期治療室（GCU）15床の計27床を有し、日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度基幹研修施設に認定されています。

全ての重症新生児に対応し、新生児外科/小児心臓外科/小児脳外科医が常勤しているため緊急手術も可能です。

大阪新生児診療相互援助システム（NMCS）の基幹病院として運営され、年間入院数約300症例のうち、超低出生体重児10〜20名、極低出生体重児30〜40名で、その生存率は80%以上を誇ります。

院外出生入院の救急搬入は年間約80例で、新生児呼吸困難や重症心臓疾患小児の紹介搬入依頼を多く受けています。その他の殆どは院内出生から当院産科に母体搬送されてきた妊婦さんの出生児で、生まれてすぐに状態が悪くなった赤ちゃんに対して、看護師や小児科医、小児麻酔科医、臨床工学技士、医療ソーシャルワーカーなどの複数科および複数職種スタッフで構成されるチームが管理を行います。

日本の将来を担う子どもたちを守るために、各部門が協力し24時間体制で新生児救急医療業務に当たっています。

関西医大における小児医療への取り組み

総合医療センター小児科では、小児科一般の疾患だけでなく15歳未満の心身症、発達障害などの病気の専門施設として研究と臨床に取り組んでいます。

具体的には、起立性調節障害や過敏性腸症候群などの自律神経失調、摂食障害、チック症、頭痛症候群などの心身症、注意欠陥多動症、自閉スペクトラム症などの発達症を対象とし、思春期の心とからだの変化に関わる問題とどうつきあうかを、看護師、ソーシャルワーカー、ケースワーカー、大阪府立刀根山支援学校の教員がチームとなって子どもたちのために考えています。

外来では、発達・心理検査、検査非薬物療法（心理療法を含む）、薬物療法を行います。起立性調節障害や過敏性腸症候群などの思春期の自律神経の不調で生活リズムが破たんしている場合には、入院して院内学級（左ページ参照）に通いながら、生活の立て直しとセルフケアの確立を目指しています。

当科は日本小児科学会研修指定施設であるとともに、日本心身医学会研修指定施設にも認定されています。スタッフは日本小児科学会専門医、日本心身医学会専門医、日本小児科医会「子どもの心相談医」、子どもの心専門医などの資格を有し、『発達』をキーワードとして医療と教育が協力して支援しています。

当院の小児医療部門では近年、重要視されている「成長に合わせた医療（成育医療）」を心掛け、院内学級（小学部、中学部）を設置するとともに、入院生活を少しでも楽しく過ごしてもらえよう、屋上庭園やホスピタルアートを配し、体力回復やストレス発散の場を提供しています。また、スタッフが協力して夏祭りやクリスマス会（コロナ禍により2020年はプレゼント配布のみ）を開催し、長期入院の子どもたちの心をケアを常に意識しています。

入院生活では、子どもたちが自らの身体の問題と向き合いながら、院内学級で勉強し、集団生活の経験を培います。そして心身両面で回復すれば、院内学級での学びも自信となつて退院します。その際に地元学校と連携して学校に復帰しやすい環境を整えるケアも行っています。

総合医療センター小児科では院内学級と小児科との協力により「滝井セミナー」も開催しています。これは学校の先生方に病を抱えた子どもたちに関する理解を深めてもらうと始めたもので、大阪府内の小中学校の教員や養護教諭らが毎回多数参加しています（過去テーマは「小児心身症/学齢期の心とからだ」、「起立性調節障害の理解と対応」など）。このように学校関係者との顔の見える関係をつくることで子どもたちをサポートしています。

心身症、発達障害を中心に幼児期から思春期までトータルにサポート

※総合医療センター



起立性調節障害を正しく診断するために、ヘッドアップチルト試験による検査や入院による早朝の起立試験を行っています。入院して翌朝、自宅での起床時間に合わせて検査をすることで、より家庭に近い結果になることもあります。適切な治療を行うには、まずは正しい診断からです。



環境づくりで長期入院もケア



附属病院、総合医療センターに併設の大阪府立刀根山支援学校分教室（写真は総合医療センター分教室）

附属病院小児医療センターのホスピタルアート



Speciality Service 痛みセンターのご紹介

関西医科大学附属病院
痛みセンター センター長
麻酔科 診療教授

中本 達夫
Tatsuo Nakamoto



New Professor 新任教授に聞く

関西医科大学附属病院
内科学第二講座(腎臓内科)診療教授

谷山 佳弘
Yoshihiro Taniyama



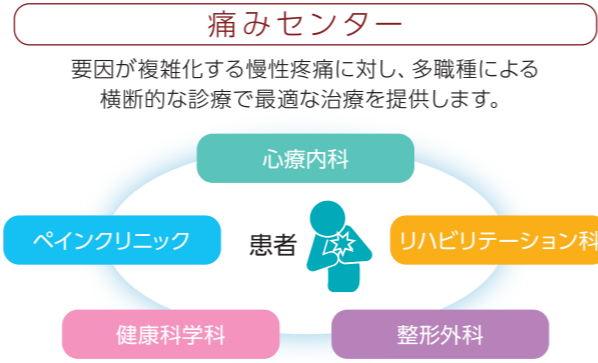
人それぞれ感じ方が違うため、数値化できないところが「痛み」の難しさです。加えて慢性疼痛(3カ月以上続く痛み)の場合、心理的・社会的要因や、活動低下による経過の悪循環など原因が複雑化する傾向にあります。治るには時間を要するため、患者さん・診療科双方の負担にもなる。今、超党派の議員連盟による「慢性の痛み対策基本法案(仮称)」が制定されつつあるように、医療現場には心と体の両面から慢性疼痛をケアできる専門部門が必要なのです。

対象とする患者さんは、痛みの要因となる疾患から派生した慢性疼痛を抱える方です。病変への直接的治療ではないためあくまでも併診を基本としており、病診連携が欠かせません。痛みのコントロールが可能になれば、積極的に地域の先生方にお返ししてゆきます。疼痛が一向に治らない、画像所見に比べて明らかに痛みが強い、痛みでリハビリテーションが進まないなどの患者さんがいらっしゃれば、ぜひお声がけください。一人ひとりに最適な治療を提供する環境を整えており、特に初診の際、心理的な要因が強いと思われる患者さんには問診にしっかりと時間を取ってご安心いただけます。また今後、北河内エリアの先生方に向けて慢性疼痛に関する情報共有や講演会など実施してゆく予定です。まずはWebでの情報発信を強化してまいりますので、どうぞ注目ください。

Interview

体と心の両面から。 慢性疼痛への集学的治療で 北河内エリアの新たな受け皿に

- 中本 達夫**
PROFILE
- 1992年3月 大阪市立大学医学部医学科 卒業
 - 1992年6月 大阪厚生年金病院 麻酔科 研修医
 - 1996年3月 大阪市立大学大学院 医学研究科外科系専攻 卒業
 - 1996年4月 大阪市立大学附属病院 麻酔・集中治療医学 後期研修医
 - 1996年7月 大阪市立北市民病院 麻酔科 医員
 - 2000年10月 豪州 Austin and Repatriation Medical Centre(現Austin Health) 麻酔科 留学
 - 2001年4月 大阪市立北市民病院 麻酔科 医長
 - 2005年10月 大阪市立住吉市民病院 麻酔科 副部長
 - 2011年4月 大阪労災病院 麻酔科 第三部長
 - 2011年4月 大阪労災病院 ヘインクリニック 部長
 - 2015年4月 関西医科大学 麻酔科学講座 診療教授
 - 2020年4月 関西医科大学附属病院 痛みセンター センター長



地域での病診連携を推し進め、腎臓の病に苦しむ一人ひとりに最適な全人医療を提供する。

2020年11月、当院初の腎臓内科の教授として着任しました。当科をよりハイレベルに、そしてより地域医療に貢献できる場へと進化させるべく尽力する所存です。

私自身は高血圧を専門に持ち、特に二次性高血圧と呼ばれる治療抵抗性高血圧の血圧コントロールについて経験が豊富であると自負しております。また前職の臨床では腎疾患全般に携わっており、慢性腎臓病の患者さんを多く担当する中、注力していたのが腹膜透析です。腹膜透析は国も普及を促進しており、現在必要とする患者さんが増えている治療法です。これまでの経験を生かして北河内エリアへの普及に努めたいと考えております。

さて、当科では腎疾患や高血圧性疾患に関わる幅広い診療を行っており、大学病院ならではの高度な医療提供と多職種による細やかな対応を強みとしています。ご存じのように、腎臓病には完治が難しいものや発症早期に自覚症状の現れないケースが多数あり、患者さんに積極的に治療を継続していただくことが不可欠です。診療や食事・栄養指導においては、患者さんご自身に状態や変化をしっかりとご理解いただけるよう分かりやすい説明を徹底しておりますので、安心してご紹介いただけます。また診断確定から治療方針の決定後、一部の特殊な治療法を必要とする方以外は、地域のクリニックへの通院と当科の定期的な受診を並行していただく患者さんが多くいらっしゃいます。一人ひとりに最適な治療を提供するには病診連携が欠かせないと考えており、透析や腎移植が必要になった場合も地域の先生方と密に情報共有しながら治療を進めてまいります。現在は直接ご挨拶に伺うことが難しい状況ですが、今後、積極的に情報発信してゆきますのでよろしくお願いたします。

- 谷山 佳弘**
PROFILE
- 1994年3月 東北大学医学部医学科 卒業
 - 1994年4月 古川市立病院 内科 初期研修
 - 2000年4月 エモリー大学医学部循環器部門 ポストドクトラルフェロー
 - 2003年10月 東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科 医員
 - 2004年4月 古川市立病院 高血圧・腎臓科 科長
 - 2006年4月 近畿大学医学部 高血圧・老年内科 講師
 - 2012年4月 近畿大学医学部 腎臓内科 准教授
 - 2020年11月 関西医科大学医学部 内科学第二講座 診療教授
 - 2020年11月 関西医科大学附属病院 腎臓内科 科長

多職種介入による患者指導
特に食事・栄養指導

専門的な検査による診断確定

病診連携を積極的に進めます

薬物療法の方針決定・修正

透析導入に向けての説明
導入予測時期、具体的な治療の説明



がんや自己免疫疾患の治療において使用する抗がん剤や放射線治療の影響により、卵巣や精巣の機能が損なわれ、妊娠する力「妊孕性」が低下して不妊症になる可能性があります。当院の生殖医療センターでは、このようなリスクのある方に対して、あらかじめ妊娠する可能性を残しておくための「妊孕性温存治療」を行っています。

がんと闘う人のために

生殖医療センター 妊孕性温存外来

がんや自己免疫疾患の治療において使用する抗がん剤や放射線治療の影響により、卵巣や精巣の機能が損なわれ、妊娠する力「妊孕性」が低下して不妊症になる可能性があります。当院の生殖医療センターでは、このようなリスクのある方に対して、あらかじめ妊娠する可能性を残しておくための「妊孕性温存治療」を行っています。



北河内エリアで初となる IMPELLAを導入。心疾患治療にさらなる選択肢を

細野 以前までは、循環器内科と循環器外科はそれぞれ固有の守備範囲を持っていて、両分野が交わる分野はとて限られていました。しかし、当院でも導入した、経カテーテルの大動脈弁置換術(TAVI)が本邦で開始されたことをきっかけに盛んにハートチームという言葉が出てくるようになりました。ハートチームは、循環器内科と循環器外科を中心に医師、看護師、臨床工学士など心疾患に関わるスペシャリストで構成された医療チームです。昨年の秋、当院のハートチームに強力な治療デバイスであるIMPELLA(補助循環用ポンプカテーテル)が導入されました。

諏訪 IMPELLAは2017年に日本で使用可能となったデバイスで、私は幸いにも国内留学中に日本での使用第一例を経験することができました。IMPELLA導入には厳しい施設基準が設定されていますが、今後の循環器救急に必要不可欠であると感じ、当院帰向後、ハートセンター長にその必要性を訴え今回の導入にいたしました。

細野 IMPELLAは、外科医としては治療前に患者さんの状態を安定させるために使用する方法和、状態が厳しい患者さんの手術後のサポートに使用する方法があります。が、内科医としてはもっと幅広く使用する場面があります。

諏訪 そうですね。CCU(心疾患専門集中治療室)の中でIMPELLAを使用する場面は多岐にわたります。心肺停止状態の患者さんにPCPS(経皮的肺補助装置)と組み合わせる使用の方法や劇症型心筋炎や急性心筋梗塞による急性心不全、心原性ショックに対する使用、ハイリスクPCI(経皮的冠動脈形成術)の術中や術後の補助といったケースが想定されます。IMPELLAは補助可能な流量によって3規格あり、どの場面でものデバイスを選択するか慎重に検討する必要があります。

細野 使用するサイズによって挿入方法が異なるので、内科医が施行するか外科医が施行するか、ハートチーム内で十分な協議が必要です。

IMPELLAの使用対象となる疾患

急性心不全 心原性ショック

急性弁膜症疾患、急性冠症候群(虚血性心疾患)、心筋症、心筋炎などによるもの

心臓血管外科(循環器外科)

細野 光治

Mitsuharu Hosono

- PROFILE
- 1994年3月 大阪市立大学医学部 卒業
 - 1994年5月 大阪市立大学医学部附属病院 臨床研修医
 - 2000年4月 大阪市立総合医療センター 心臓血管外科 前期臨床研究医
 - 2001年5月 アムステルダム大学academic medical center リサーチフェロー
 - 2002年5月 大阪市立大学医学部附属病院 第2外科 後期臨床研究医
 - 2006年4月 大阪市立総合医療センター 心臓血管外科 後期臨床研究医
 - 2008年1月 大阪市立大学医学部附属病院 心臓血管外科 病院講師
 - 2008年7月 大阪市立大学大学院 医学研究科 循環器外科 講師
 - 2015年10月 大阪市立大学大学院 医学研究科 心臓血管外科学 准教授
 - 2016年4月 関西医科大学 心臓血管外科学講座 診療教授

循環器内科

諏訪 恵信

Yoshinobu Suwa

- PROFILE
- 2006年3月 関西医科大学医学部 卒業
 - 2006年4月 関西医科大学附属方病院 臨床研修医
 - 2008年4月 関西医科大学附属方病院 循環器腎内内分泌代謝内科 専修医
 - 2009年4月 回生会宝塚病院 医員
 - 2011年4月 関西医科大学附属病院 循環器腎内内分泌代謝内科 病院助教
 - 2016年3月 関西医科大学大学院 医科学専攻 卒業
 - 2017年4月 大阪大学医学部附属病院 医員
 - 2018年4月 関西医科大学附属病院 循環器腎内内分泌代謝内科 助教

器救急の中核病院として、これまで以上に多くの選択肢から最適な治療を提供できるようになりましたので、お気軽にご相談いただければと思います。

細野 今後も、ご紹介くださった患者さんに安全で安心な医療を提供し、少しでも早くかかりつけの先生方の元へ戻りいただけるよう努めてまいります。

IMPELLA(補助循環用ポンプカテーテル)
経皮的に大動脈から左心室へ挿入。カテーテル内の羽根車が回転することで、心臓のポンプ機能を補助し血流をつくり出す。

男性に行う妊孕性温存治療

精子凍結

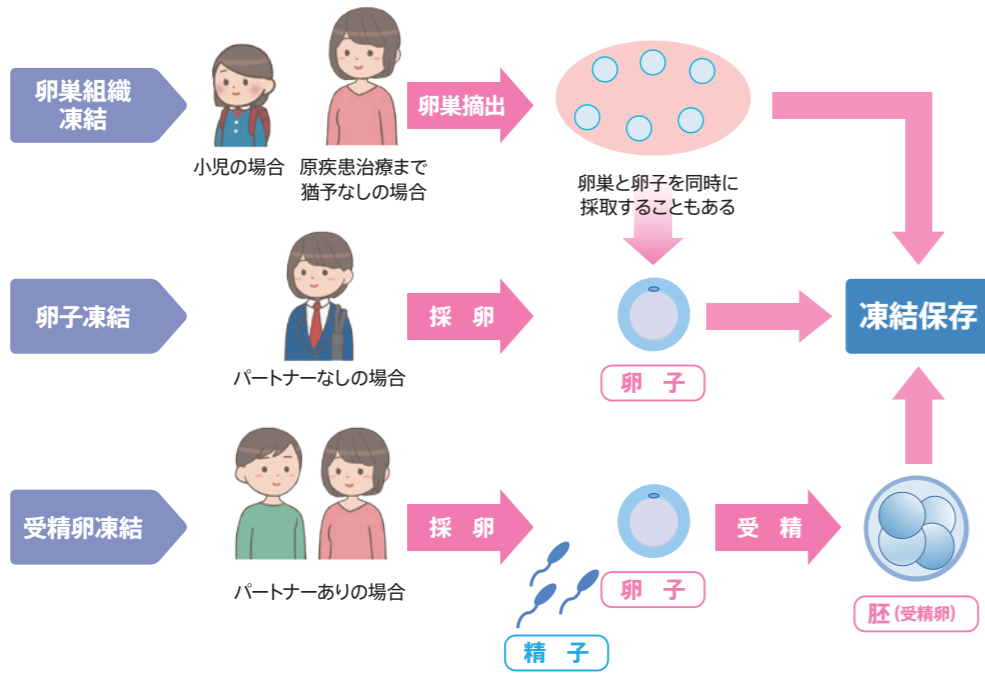
ご自身で採精して頂いた精子を凍結する方法

女性に行う妊孕性温存治療

卵子凍結
採取した卵子を凍結する方法

受精卵凍結(胚凍結)
採卵した卵子をパートナーの精子と受精させた後に凍結する方法

卵巣組織凍結
手術で卵巣を摘出して、卵巣組織を凍結する方法





New Professor 新任教授に聞く

関西医科大学総合医療センター
消化器肝臓内科 教授

島谷 昌明
Masaaki Shimatani

新規胆膵内視鏡治療の開発者として、 より多くの患者さんに 非侵襲的治療を届けたい

2020年11月に附属病院より異動し、総合医療センターに着任しました。胆膵疾患を専門領域に持ち、内視鏡治療を得意としています。

胆膵疾患での内視鏡検査・治療には、通常はERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）を実施します。しかし術後再建腸管（胃や膵臓等の術後）を有する胆膵疾患におけるERCPは困難で、これまで外科的な治療等が必要でした。患者さんの身体的負担や整容性、社会復帰にかかる時間を考えると侵襲性が低いに越したことはありません。そこで私は小腸用に開発されたダブルバルーン内視鏡を応用したDB・ERCP（胆膵内視鏡治療）を考案しました。2006年からこれまで2000例以上の治療を行い、国内外への普及にも尽力。我々の研究成果が基となって2016年に保険収載されて以来、この内視鏡治療は多くの患者さんにとって現実的なものとなっています。

このたび当院に着任したことで、守口市周辺エリアの患者さんにもDB・ERCPを提供できる機会が増えると考えています。緊急を要する患者さんの受入体制も強化してゆきますので、検査・治療に内視鏡が必要な患者さんがいらっしゃれば、ぜひご紹介ください。当院での治療が終われば速やかに地域の先生にお返しすることはもちろん、かかりつけの先生方と情報を共有・相談しながら共同で診るといった取り組みも実現してゆきたいと考えております。

私の信念は「Avoid Surgery」です。的確な診断と最適な治療で、患者さんにより早く日常生活に戻っていただくことが喜びです。当院は歴史的に肝臓疾患に強みがありましたが、昨年3月には全国的にも珍しい胆膵センターも稼働を始めました。今後は院内各科の連携をますます強固にし、消化器内科領域でさらに地域から頼られる病院となれるよう務めてまいりますので、よろしくお願いたします。

Interview



New Professor 新任教授に聞く

関西医科大学総合医療センター
乳腺外科 診療科長

岸本 昌浩
Masahiro Kishimoto

乳がん治療にパラダイムシフトを。 研究と臨床で培ってきた知見で、 諦めてしまう患者さんを減らします

再発や切除不能など、難治性の乳がんを専門にしています。近年、早期の乳がんは治る病気となりつつありますが、切除不能なほど進行した場合や転移・再発したケースの寛解は未だ難しいとされています。しかし私は、ステージが進行した多くの乳がん患者さんを寛解に導いてきました。がん細胞は常に変容するため、保険適用の薬剤でも投与順や組み合わせで効果が変わりますし、放射線治療や外科療法に適したタイミングも変化します。そこを見極めて最適な治療法を選択していく。これは臨床に加え、研究者としてがん細胞と向き合った経験によるものだと自負しております。前職においては、一般的に転移性乳がんの5年生存率が40%と言われる中、私は5年生存率67%を実現してまいりました。特にルミノールタイプ（ホルモン受容体陽性乳がん）では、80%以上の成績が得られておりました。乳がん治療は、標準治

療が基本ではありませんが、それが100%の乳がんを治せるわけはありません。標準治療では根治が難しい乳がんでも、ご希望に合わせて一人ひとりに寄り添った選択肢をご提案し、さらなる治療成績の向上を目指したいと考えています。「難治性／再発性の乳がんだったのに完全寛解した」という患者さんの比率を上げ、その状態をできるだけ長く保っていくことが私の使命だと思っております。

このたび、着任にあたり乳腺外来の初診を再開しました。当院はハード面が充実しており、特に精密検査の丁寧さや化学療法室の環境の良さは評判をいただいています。さらなる充実のため、今は抗がん剤の頭皮への影響を減らし、脱毛を抑制できる頭部冷却装置の導入に向けて動いています。ソフト面では最先端の治療を診療科スタッフに定着させ、治療レベルのさらなる向上に尽力してまいります。進行した乳がん、切除不能な

Interview



ダブルバルーン内視鏡
従来は外科の治療が必要だった胃や膵臓の術後症例でも、ダブルバルーン内視鏡を用いたERCPによる非侵襲的な検査・治療が可能。



島谷 昌明

PROFILE



- 1995年3月 関西医科大学 卒業
- 1997年4月 関西医科大学内科学 第三講座 入局
- 1998年4月 静岡県立総合病院 消化器内科 専修医
- 2002年3月 関西医科大学大学院医学研究科博士課程 単位修得
- 2003年8月 関西医科大学内科学 第三講座 助手(定員外)
- 2004年4月 関西医科大学内科学 第三講座 助手
- 2006年1月 関西医科大学大学院 医学研究科 学位取得
- 2008年4月 関西医科大学附属枚方病院 消化器肝臓内科 講師
- 2010年7月 関西医科大学 内科学第三講座 講師
- 2017年1月 関西医科大学附属病院 消化器肝臓内科 准教授
- 2020年11月 関西医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科 教授、内視鏡センター センター長



化学療法室
多職種スタッフによる質の高い治療とケアで、安心して治療を受けていただける体制を整備しています。

岸本 昌浩

PROFILE



- 1993年3月 福島県立医科大学 卒業
- 1993年5月 福島県立医科大学 第2外科 助手
- 1993年10月 太田総合病院附属太田西ノ内病院 外科医員
- 1995年10月 瑞厚生病院 外科医員
- 1997年4月 福島県立医科大学 輸血移植免疫部 診療医
- 2000年4月 坪井病院 外科医長
- 2002年7月 国立がんセンター研究所 生物学部 研究生
- 2005年1月 寿泉堂総合病院 乳腺外科 部長
- 2006年4月 大山病院 乳腺外科 部長
- 2011年4月 明和病院 乳腺・内分泌外科 担当主任部長
- 2021年1月 関西医科大学総合医療センター 乳腺外科 診療科長

Speciality Service

産婦人科病棟の取り組み

関西医科大学総合医療センター
産婦人科 管理師長 助産師
専門看護師(母性看護)取得

大上 千賀
Chika Oue



関西医科大学総合医療センター
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY MEDICAL CENTER

Speciality Service

脳卒中センターのご紹介

関西医科大学総合医療センター
脳卒中センター センター長

岩瀬 正顕
Masaaki Iwase



現在、母子やご家族を取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、核家族の増加や育児支援者不在による母子の孤立などが社会問題となっています。そして今、コロナ禍での出産は妊産婦の不安を増大させています。

産婦人科病棟では以前より、不安の強い妊婦さんに対して地域の保健師とカンファレンスを行うなど積極的な継続支援に取り組んでまいりました。お産は出産して終わりではありません。母子がさまざまな支援を受けられる環境を整えるべく、「産む」をトータルで支える切れ目のないサポート体制を目指しています。2020年度からは守口市在住の産後ケア事業の利用者の受け入れを開始しました。今後、母子保健法の改正を追い風に、他の市町村にも対象を拡大してゆきたいと考えています。当院は精神科のリエゾンチームの活躍も強みです。精神疾患がある方をはじめ、周産期のメンタルヘルスで不安を抱える方がいらっ

Interview

出産から産後、育児まで。切れ目のない母子支援をスタッフ一同で目指す

「産む」をトータルで支える切れ目のないサポート体制を目指しています。2020年度からは守口市在住の産後ケア事業の利用者の受け入れを開始しました。今後、母子保健法の改正を追い風に、他の市町村にも対象を拡大してゆきたいと考えています。当院は精神科のリエゾンチームの活躍も強みです。精神疾患がある方をはじめ、周産期のメンタルヘルスで不安を抱える方がいらっ

回収・除去する「機械的血栓回収療法」です。当センターでは血管回収療法に必要な血管撮影装置を最新型に更新し、院内で連携する診療科とマンパワーを増強。今後は脳神経血管内治療の専門指導医が常時3名待機し、ファーストタッチにおいては脳の専門医師を含めた救急医がチーム体制で対応します。

当院には不整脈を得意とする医師やカテーテル手技の得意な医師がおり、最先端の循環器手法を取り入れている部署があります。また当センターでは救急担当医との日常的なカンファレンスで密な情報共有に努めております。これまで地域の先生方と築いてきたネットワークをベースに、院内では各領域との連携を強みとし、地域の中核病院としてさらなる貢献に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

Interview

24時間365日脳卒中に対応。ハード面もソフト面も強化し、さらに頼っていただけるセンターへ

脳卒中センターは2012年の開設以来、脳血管障害を扱う脳神経外科、神経内科、救命救急センターをはじめとする多領域の連携で、脳梗塞や脳出血、くも膜下出血といった脳疾患の診断・加療に対応しております。地域による脳卒中の包括的なケアネットワーク(急性期病院、急性期リハビリ病院、慢性期リハビリ病院)の中、急性期病院として多くの患者さんを受け入れてまいりました。

今、厚生労働省による「循環器病対策推進基本計画」の策定を契機に、脳卒中と循環器系疾患に対する整備を進める動きがあります。当院でも本年よりさっそく、二次救急部門の再整備と脳卒中センターの強化に取り組み始めました。ハードとソフトの両面から時代のニーズに合わせた体制を整え、より多くの患者さんにスムーズな治療を提供できる環境にしていきたいと思います。特に推進基本計画の中で一番のポイントとなっているのが、カテーテルで血栓を直接

大上 千賀 PROFILE



京都府立医科大学附属看護専門学校助産科を卒業し助産師資格取得
関西医科大学附属岡山病院へ助産師として入職
関西医科大学附属病院へ異動
2012年 京都橋大学看護学研究科修士課程卒業
2013年 母性看護専門看護師認定資格取得
2019年 関西医科大学総合医療センターへ異動



岩瀬 正顕 PROFILE



1985年3月 関西医科大学 卒業
1991年3月 関西医科大学 大学院卒業
1992年1月 関西医科大学 脳神経外科学講座 助手
1994年7月 関西医科大学 高度救命救急センター勤務
2001年8月 関西医科大学 脳神経外科学講座 講師
2006年1月 関西医科大学附属滝井病院(現 総合医療センター)救命救急センター勤務
2011年4月 関西医科大学附属滝井病院 救急医学科 副部長
2012年2月 関西医科大学附属滝井病院 脳神経外科学講座 准教授
2012年4月 関西医科大学附属滝井病院 病院教授 脳神経外科部長・脳卒中センター長・救命救急センター長
2016年5月 関西医科大学総合医療センター(施設名変更)脳神経外科部長・脳卒中センター長



3テスラMRI

造影剤や放射線を使わず、脳血管を安全に検査することができる。



IVR-CT

Speciality Service

骨粗鬆症センターのご紹介

関西医科大学香里病院
骨粗鬆症センター センター長
整形外科 診療部長
上田 祐輔
Yusuke Ueda



が、患者さん自身が治療効果を自覚しづらいため、だんだん面倒になって治療を中断してしまうことが多いといわれています。しかし内服をきちんと続けることで、骨粗鬆症による骨折の頻度を低下させることが報告されており、この治療継続率を向上させることが地域の患者さんの健康寿命の延伸のため最も重要であることは明らかであります。

この問題については治療担当医師の独力で克服することは困難であるため、既に国内でも様々な地域として施設で「骨粗鬆症リエンササービス」として多職種医療スタッフと連携し治療継続率を向上させる試みがなされ、多くの成果が報告されています。私も骨粗鬆症センターの開設にあたって既にこのような成果を報告されている先生方と情報交換を行いそのノウハウを学んでまいりました。また当該地域ではこのように「骨粗鬆症リエンササービス」を提供している施設はほぼ無く、今後当該センターが当該地域の先生方や患者さんの道しるべとなればという思いを込めて開設に至った次第です。骨粗鬆症治療継続率の向上を目指し、医師、看護師、診療放射線技師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、地域医療連携部が一丸となって地域の先生方のご協力のもと患者さんの健康寿命の延伸に微力ながら努めさせていただき所存です。

病診連携のスムーズ化を基本に

当センターの運営の軸は、地域の先生方から骨粗鬆症について精査が必要な患者さんや精査を希望される患者さんをご紹介いただき、骨密度検査、単純レントゲン検査そして血液検査などにより精査を行い、診察の上個々の患者さんに相応しい治療方針を提案させていただき、最終的にご紹介元の先生に治療を継続していただくという、循環型骨粗鬆症リエンササービスであります。患者さんには基本的に地域のかかりつけの先生にその他の(例えば高血圧や高脂血症)治療薬と一緒に当方でご提案した骨粗鬆症治療薬を継続処方していただき、当院へは年に1〜2回程検査にお越し頂くこととなります。もちろんこちらから提案させていただく治療方針は個々の先生方の施設の現況にフィットしたものとさせていただきます。高価な注射剤などクリニックでは在庫を置くことが憚られるようであれば当方で投与させていただくこともできます。す、当初の導入のみ当院で行い安定すれば地域の先生方にバトンタッチすることなども可能かと存じます。そして、骨粗鬆症による骨折治療のため入院、さらに手術が必要と考えられる場合にも適宜対応させていただきますのでご連絡ください。

Interview

「骨粗鬆症センター」が始動。診療から治療方針の決定、地域医療との連携までアプローチをよりスムーズに

当院ではこれまでも整形外科が中心となり骨粗鬆症の診療に力を入れてきました。そして地域の先生方には当院の骨塩定量検査(骨密度検査)をさまざまな形でご利用いただきましたが、このたびよりスムーズな病診連携を実現すべく骨密度検査を軸とした専門センターを設けましたので、ご挨拶させていただきます。

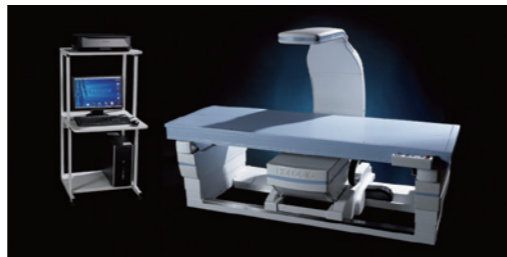
センター設立の経緯

私は大学院生時代、免疫学の研究室で骨粗鬆症モデルマウスを用いた骨粗鬆症の分子生物学の研究を行ってまいりました。大学院修了後は滝井病院(現総合医療センター)及び枚方病院(現・附属病院)にて整形外科臨床医として関節リウマチによる関節変形に対する手術や人工股関節手術など外科的治療を中心に研鑽を積んでまいりました。これらの患者さんの中には骨粗鬆症を患っておられるにもかかわらず全く治療を受けておられない方もおられ、大学病院での専

門治療に関われるゆいみを感じる一方で、骨粗鬆症治療の最前線における不安も感じていました。

65歳以上の女性や私の専門領域の一つである関節リウマチ患者さんでは骨粗鬆症を伴っている頻度が非常に高いといわれています。骨粗鬆症はちょっとした転倒や尻もちなどで容易に背骨や大腿骨の骨折を生じ、不幸な場合は寝たきりになってしまうこともあります。また一度背骨を骨折した患者さんが再び背骨を骨折する可能性は、骨折したことがない患者さんが骨折する可能性の4倍ともいわれています。このように何度も骨折を繰り返すことを「骨折連鎖」と呼びますが、この連鎖に陥ることでますます患者さんのADLは低下していきます。

4年前に香里病院に着任してから当院に求められる地域のニーズに合わせて骨粗鬆症による骨折の患者さんの診療に関わる機会が格段に増加しました。この4年間の経験の中で、当該地域にお住まいの患者さんに



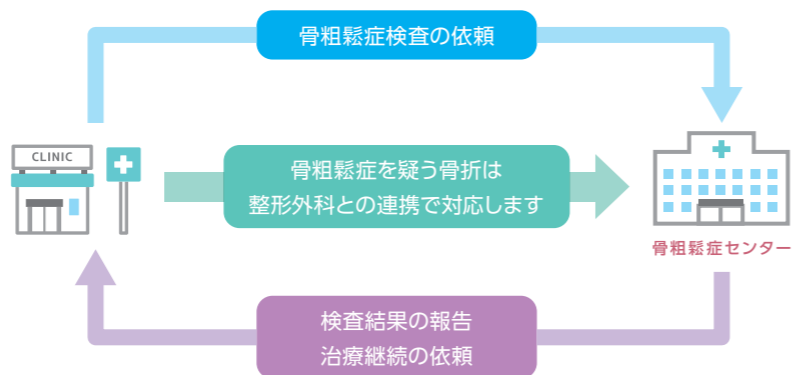
骨塩定量検査装置

現在、ご紹介いただく際の簡潔な診療情報提供書のフォームを準備しております。既述のように当センターの運営は病診連携が基本になりますので、地域のかかりつけの先生方との繋がりは欠くことができません。当センターの使命は骨粗鬆症の治療継続率の向上を介して地域の患者さんの健康寿命の延伸に貢献することと心得ています。今回強化した診療体制により、地域の先生方と強固なスクラムを組んで共に取り組んでゆくことができれば幸いです。



骨粗鬆症センターでは整形外科・内科・放射線科の医師、看護師や診療放射線技師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士などメディカルが一体となり、シームレスな診療体制を整えています。

骨粗鬆症センター連携イメージ



おいてやはり骨粗鬆症であるにもかかわらず治療がなされていない方を診療する機会もたいへん多かったことから、当院が関西医大関連施設として附属病院や総合医療センターとまた違った形で地域医療に貢献できる手段はないかと考えてきました。そこでこれまでの経験を活かし、地域の先生方とより深く連携し、そして何よりも地域の患者さんの健康寿命の延伸を目指し骨粗鬆症センターを創設しました。

骨粗鬆症治療の現状について

さて、社会の高齢化が進む中でさまざまな生活習慣病との関連も指摘される骨粗鬆症については日本骨粗鬆症学会が診断・治療のガイドラインも策定し、多くの患者さんがこの福音を享受している一方で、実は問題となっているのが「治療継続率」の低さです。骨粗鬆症に対する薬物治療は根気よく続ける必要があります



上田 祐輔 PROFILE



- 1999年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1999年4月 関西医科大学附属病院 研修医
- 2001年4月 関西医科大学附属洛西ニュータウン病院 整形外科
- 2003年4月 関西医科大学大学院 医学研究科 入学
- 2007年3月 関西医科大学大学院 医学研究科 修了
- 2007年4月 関西医科大学 整形外科講座 助手
- 2007年4月 関西医科大学附属滝井病院 整形外科 博士(医学)取得
- 2007年5月 博士(医学)取得
- 2012年10月 関西医科大学附属枚方病院 整形外科
- 2016年3月 関西医科大学 整形外科講座 講師
- 2017年4月 関西医科大学香里病院 整形外科 診療部長
- 2020年11月 関西医科大学香里病院 准教授
- 2021年1月 関西医科大学香里病院 骨粗鬆症センター長



Speciality Service

副病院長に聞く

関西医科大学くずは病院
副病院長 総合内科部長

角田 智彦

Tomohiko Sumida

関西医科大学くずは病院として新たに出発し、約3年が経過しました。この間、病床の再編成や地域連携体制の強化などを実行してまいりましたが、これは地域に密着した大学病院として、地域医療と基幹病院を繋ぐ役割を果たすべしという使命のために他なりません。今年度ではニーズの高い領域における常勤医師の増員も実現しました。春に整形外科を増員したことは前回の「つなぐ12号」で高山院長よりご案内しましたが、秋には整形外科とも緊密な内科における診療強化も完了しましたので、紹介させていただきます。

社会の高齢化が進む中、整形外科領域の疾患と併せて、がんを含める消化器系疾患、また高血圧や心不全といった循環器系疾患を抱える高齢者が増えています。そういった背景を考慮し、整形外科と内科の連携強化こそが診療体制の充実不可欠だと判断して内科医を増員いたしました。現在は消化

器内科2名と循環器内科2名、総合内科医1名、計5名の常勤医に非常勤医を加えて診療にあたりております。内視鏡検査・治療が休診日なくいつでも対応可能になりましたし、最新鋭の内視鏡を導入したことで、当院で完結できる対象疾患の範囲が広がりました。

地域で暮らす患者さんの望みは、住み慣れた土地で長く生活を送ることだと考えます。そして当院の強みは、高度な医療を提供できる附属病院（枚方）と、緊密に連携していること、総合病院などで急性期治療を終えた患者さんのより早い社会・在宅復帰を総合的にサポートする橋渡し役を担えることです。当院では今後も地域の皆様のご期待に応えられるよう、時代のニーズに合わせた変革を続けてまいります。クリニックの先生方と共に、地域医療をさらに発展させてゆけることを願っております。

角田 智彦

PROFILE



- 1993年3月 関西医科大学 卒業
- 1993年5月 関西医科大学 胸部心臓血管外科 入局
- 1995年5月 静岡赤十字病院 外科勤務
- 1996年5月 静岡赤十字病院 心臓血管外科勤務
- 1998年5月 慶應義塾大学病院 心臓血管外科勤務
- 1999年5月 関西医科大学 胸部心臓血管外科 助教
- 2012年2月 関西医科大学 胸部心臓血管外科 診療講師
- 2016年1月 柏友会補葉病院 内科
- 2018年1月 関西医科大学くずは病院 内科
- 2018年4月 関西医科大学くずは病院 副病院長、総合内科部長



Speciality Service

国内で唯一の薬事承認を得た
エキシマレーザーの導入で、
難治性皮膚疾患により充実した治療を提供

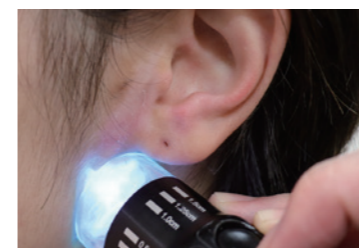
関西医科大学香里病院
皮膚科 診療部長 准教授

上尾 礼子

Reiko Noborio

紫外線治療が有効とされる皮膚疾患には、乾癬や白斑、アトピー性皮膚炎や円形脱毛症などがあり、エキシマレーザー「XTRAC®」は、2019年に保険適用となった紫外線治療機器です。波長はこれまで普及してきたエキシマライトと同じ308nmですが、輝度が高く、少ない治療回数で早く効果が表れること、またターゲット型紫外線照射器として健常な部位への不要な紫外線暴露を回避できる点などが特長として挙げられます。照射時間が短く治療もスピーディーで、紫外線治療の進歩に大きく貢献する存在です。

私は名古屋市立大学病院に勤務していた時代、エキシマレーザーを使用して白斑の臨床研究を行っていました。その実績を生かし、当院でも「XTRAC®」の臨床研究を実施し論文を発表。「XTRAC®」が薬事承認を受けてからは、大学病院としては全国初となる導入を実現しました。導入から約2年、現在エキシマレーザーのみで月平均200件の診療実績があります。乾癬や白斑、アト



エキシマレーザー治療

中波長紫外線療法の対象となる皮膚疾患を抱える方に
乾癬・掌跖膿疱症・白斑・円形脱毛症 など

ピー性皮膚炎、円形脱毛症の推定患者数は年々増えており、効果の高い中波長紫外線療法へのニーズも高まっています。従来の治療法で難治されている患者さんがいらっしゃれば、ぜひ当科へお声がけください。

当科では一般皮膚疾患から難治性皮膚疾患まで、最先端の知見を取り入れながら一人でも多くの患者さんに喜んでいただける診療を目指しております。私は美容皮膚科・レーザー指導専門医として認定を受けており、後進の育成にも尽力してまいりました。これからもスタッフ一丸となり、より良い治療が提供できるようスキル向上に努めてまいります。

上尾 礼子

PROFILE



- 1993年3月 大阪医科大学医学部 卒業
- 2001年3月 大阪医科大学大学院 医学研究科博士課程 修了(医学博士)
- 2004年7月 名古屋市立大学病院 皮膚科 助教
- 2007年6月 名古屋市立大学病院 皮膚科 科内講師
- 2011年2月 関西医科大学附属病院 皮膚科 診療講師
- 2013年7月 関西医科大学香里病院 皮膚科 部長
- 2019年1月 関西医科大学香里病院 皮膚科 病院准教授

加入学会および資格 日本皮膚科学会 認定皮膚科専門医
日本皮膚科学会 認定美容皮膚科・レーザー指導専門医



紫外線治療用 エキシマレーザー

香里病院皮膚科では、紫外線療法の一つ、エキシマレーザーとして国内で唯一薬事承認を取得している「XTRAC®（エクストラック）」を採用しています。他にも全身型・部分照射型のナローバンドUVB照射器、エキシマライト2機種を有しており、紫外線が有効とされる疾患に広く対応が可能です。



左から：宮本早知 医師、角田智彦 副院長・総合内科部長、高山康夫 病院長、今村洋二 名誉院長・顧問、福原貴太郎 医師、野田哲平 医師

内科の常勤医を増員しました

このたび、くずは病院では内科の常勤医を増員しました。設備面においても強化を図り、より充実した受け入れ体制で地域に役立つ病院を目指します。



循環器内科

野田 哲平

Teppey Noda

循環器内科が専門です。生活習慣病の外来を柱に、系列病院で心疾患の急性期治療を終えた入院患者さんのリハビリなどを担当しています。現在、整形外科に強い病院として体制を整えつつある当院ですが、患者さんには内科的疾患を併発している方も多いため、連携で支えながら「地域密着のリハビリ病院」としての機能強化に寄与できると考えています。

PROFILE

2005年4月 関西医科大学 第2内科入局 循環器内科
2020年9月 関西医科大学くずは病院 内科



消化器内科

宮本 早知

Sachi Miyamoto

総合内科と消化器内科を専門としています。近年では女性の大腸がんも増加傾向にあります。大腸内視鏡検査など、私が女医であることでご安心いただけるケースも見受けられ、大変やりがいを感じております。従来以上に充実した診療体制で、がんをはじめとする消化器疾患の早期発見、治療に努めてまいります。

PROFILE

2009年4月 関西医科大学附属病院 消化器内科
2012年4月 大阪府済生会野江病院 消化器内科
2014年4月 関西医科大学大学院 博士課程
2018年4月 宇治病院 消化器内科
2020年4月 関西医科大学くずは病院 消化器内科



消化器内科

福原 貴太郎

Takataro Fukuhara

消化器内科・消化器内視鏡を専門に持ち、プライマリ・ケア担当も務めております。昨年、最新式の内視鏡を導入し高度な内視鏡検査・治療が可能になりました。地域に根ざした病院だからこそ、患者さんの生活への負担を最小限に抑えながら最先端のケアが提供できる体制は強みだと考えております。地域的ニーズの高い整形外科領域との連携を強化しつつ、樟葉・八幡エリアのより良い医療サイクルづくりに貢献してまいります。

PROFILE

1995年3月 京都大学医学部医学科 卒業
1995年4月 京都大学医学部付属病院 内科
1996年4月 京都大学大学院 医学研究科分子医学系
2004年2月 昭和大学横浜市北部病院 消化器内科
2007年4月 国家公務員共済連合会枚方公済病院 消化器内科
2013年4月 関西医科大学 第3内科 消化器肝臓内科
2020年9月 関西医科大学くずは病院 消化器肝臓内科

Topic

電子カルテを導入しました

2020年8月より、くずは病院では関西医科大学グループで診療情報を共有する電子カルテを採用しています。系列4病院(附属病院・総合医療センター・香里病院・くずは病院)での一元的なデータ管理により、医療だけでなく在宅ケア・訪問看護など介護福祉でもシームレスなサービス提供が可能になりました。当院では今後も職員一丸となり、医療の質の向上に取り組んでまいります。



今後の天満橋総合クリニックの診療体制について

予防医療に重点を置いた診療体制への移行

社会のさまざまな場面で、予防医療の重要性が増していると感じます。事実、天満橋総合クリニックの予防医療部門の診療実績は、社会の多様な要望に支えられて堅調に推移してきました。そこで、クリニックは、予防医療中心の診療体制へ大きくシフトすることを決断し、準備を進めています。

そのような状況の中、昨年より流行が本格化した新型コロナウイルス感染症は、現在も医療現場に深刻な影響を与え続けています。当分の間、新型コロナウイルス感染症が終息することとは困難であると考えられ、新型コロナウイルスと共存するウィズコロナ時代における診療の在り方を検討することが急務となりました。

天満橋総合クリニックは総合健

ウィズコロナ時代の新しい診療体制について

感染性の疾患が疑われる患者さん、他の受診者と完全に分離するために、外来診療を原則として予約制としました。発熱などの症状を認め感染症が疑われる患者さんは、事前に予約を受けて、診察室を別にし、午後の特定の時間帯に診療することになりました。

総合健診部門と総合外来部門の診療スペースは、廊下を隔てて基本的に分離されており、人間ドック健診受診者への基本的な感染防止体制はできていますが、午前中の外来診療を段階的に縮小し、外来診療は午後以降に移行していくことを予定しています。また、午後にも行っている健診を午前中に集中していくことを考えています。これにより、健診受診者の利便性は向上し、総合健診部門の感染リスクは、さらに軽減されると思われれます。

午前中の外来は、予防医療関連のものに集約していきたいと考えています。

ウィズコロナ時代にあっても予防医療の重要性は変わりません

例えば、人間ドック健診で見つかった異常に対する精密検査を効率よく行うための外来、心臓血管病予防のための外来、人間ドック健診で見つかった異常所見の経過観察を行うための外来などです。具体的には、高血圧、糖尿病などの生活習慣病診療を中心とした外来、ピロリ菌の除菌治療および除菌治療後の経過観察、ウイルス性肝炎の治療後の経過観察などです。

昨年は緊急事態宣言の発令を受けて、行政より人間ドック健診や保健指導の一時休止を求められました。その趣旨に沿って、人間ドック健診の大部分を一時的に休止しました。このような状況が長引けば、人間ドック健診を受ける機会を逸した方々に、発見されるはずであった重篤な病気が見過ごされてしまうなどの目に見えない健康被害が多発する可能性があります。事実、緊急事態宣言解除後は、多くの受診者が来られました。その中には、治療を急ぐがんや心臓病の方が少なからずおられました。新型コロナウイルス感染症の流行にかかわらず、感染対策をしっかり行った上で、人間ドック健診などの予防医療関連の診療を継続することが重要と考えています。

